

## 第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教

### A. イエスは仮庵の祭りのためにエルサレムへ旅をする

#### デイリー・ジーザス・ニュース #141

##### 1. 兄弟たちの嘲笑の後、イエスはエルサレムへ出発する

ヨハネ7.2-10; マルタ19.1A; ルカ9.51 (マルコ10.1A)

1 イエスは天に上げられる時が近づいたので、エルサレムへ向かう決心を固められました。

2 ユダヤ人の仮庵の祭りが近づいたとき、3 イエスの兄弟たちはイエスに言った。

「ガリラヤを去ってユダヤに行きなさい。そこにいる弟子たちにも、あなたのなさっている業を見せなさい。4 公人になりたい者は、秘密裏に行動するべきではない。あなたがこれらのことをしているのなら、世間に姿を現しなさい。」

5 というのは、彼の兄弟たちさえも彼を信じなかったからである。

6 そこでイエスは彼らに言いました。 「私の時はまだ来ていない。あなたにとってはいつでも構わない。」 7 世はあなたがたを憎むことはできません。しかし、わたしを憎むのです。わたしが世の行いが悪いと証言するからです。 8 あなたは祭りに行く。私はわたしの時はまだ満ちていないので、今この祭りに上って行くつもりはありません。」

9 こう言ってから、イエスはガリラヤにとどまった。( 10 ) しかし、兄弟たちが祭りに出かけた後、彼も公然とではなく、密かに出かけました。

MT イエスはこれらのことと語り終えると、ガリラヤ地方を去って、ユダヤ地方へ行かれた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤いイタリック体で書かれています。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

#### コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤ
タイムライン	9月 ( 31月 )
イエスの生涯の文脈	第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教
	A. イエスは仮庵の祭りのためにエルサレムへ旅をする
タイトル	1. 兄弟たちの嘲笑の後、イエスはエルサレムへ出発する

## 第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教

### A. イエスは仮庵の祭りのためにエルサレムへ旅をする

コメント：

今日の朗読は、イエスの生涯の第六段階、「後期ユダヤ伝道」の始まりです。ガリラヤとその周辺地域で2年間過ごした後、イエスはその後3ヶ月間ユダヤを旅します。また、エルサレムにも2回、それぞれ約1週間の短い滞在をします。後期ユダヤ伝道は、仮庵の祭り（9月）から奉獻の祭り（12月中旬）までの期間をカバーします。

イエスは仮庵の祭りの後、二人ずつの弟子からなる35組の弟子たちをユダヤとペレアに派遣されました。彼らは、十二使徒が第三回ガリラヤ巡回で行ったように、イエスの到来に先立って働き、人々を説教と癒しの業で備えさせるのです。

ルカによる福音書（ルカ9:51～13:35）とヨハネによる福音書（ヨハネ7:2～10:39）はどちらも、この宣教の時期について語る、他のどの福音書にも見られない独自の内容を多く含んでいます。ルカはこの時期を長い旅行記として扱い、イエスがユダヤ全土を旅し、福音を宣べ伝え、弟子たちに熱心な弟子訓練を施した様子を描いています。ルカは、私たちが大切にしているイエスのたとえ話や教えを数多く記しています。

ヨハネは、エルサレムでこの時期に起こったイエスの主要な出来事と説教のうち、ほんの数点に焦点を絞り、それぞれを詳細に記述しています。ルカとヨハネを合わせると、イエスの宣教活動のこの時期の様子がよく分かります。

ルカ（28番）とヨハネ（27番）は、この時期の記述の中で、それぞれイエスの奇跡を一つだけしか取り上げていません。ルカは70人が多くの癒しの奇跡を行ったことを記しています。マタイとマルコも、ユダヤでイエスに従った大群衆の中から多くの人々を癒したイエスのことを記しています。これは、イエスの宣教と活動が途切れることなく、勢いよく続いたことを示しています。これは、初期ユダヤ教時代にイエスが行った、はるかに静かで控えめな宣教とは対照的です。

イエスがガリラヤから去ったことは、そこでの2年間の宣教活動の終焉として、苦い終わり方でした。兄たちはイエスを嘲笑し、「あなたはこのようなこと（奇跡）を行っているのだから、世に姿を現しなさい」と、特に残酷な言葉を投げかけました。

兄弟たちは、イエスの奇跡を事実だと仮定していることを示す文法構造を用いていました。しかし、彼らの意図は明らかに異なっていました。それは痛烈な皮肉でした。ヨハネが説明しているように、「実の兄弟たちでさえイエスを信じていなかつた」のです。彼らの言葉と文法は、彼らがイエスの奇跡を信じていることを示していましたが、それは空虚さを嘲笑するだけのものでした。彼らがそれを口にしたとき、彼らの笑い声が聞こえてきそうです。

一方、イエスはエルサレムへ向かう旅に出発した際、復活と天の栄光への昇天を心に見据えていました。主は、ご自身の死が成し遂げるであろう限りない善なることに目を向けていました。イエスは信仰によって生き、この箇所におけるイエスの姿勢は、私たち一人ひとりにとって素晴らしい模範となります。

## 第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教

### A. イエスは仮庵の祭りのためにエルサレムへ旅をする

イエスは、ガリラヤから南下してエルサレムを目指した巡礼者たちの主要一行とは一線を画し、ヨルダン川東岸を巡ってエルサレムを目指しましたが、兄弟たちと共に旅をされませんでした。イエスは数日間待ち、その後「秘密裏に」サマリアを通る旅を選びました。サマリアは、生豚肉を食べるのと同じように、ほとんどのユダヤ人が避けていた道でした。イエスがガリラヤへ上って宣教活動を始めたとき、サマリアを通らなければならなかったように、ガリラヤを去る最後の旅でも、サマリアを訪れたのです。

異父兄弟や同胞から拒絶されながらも、あらゆる機会を利用してサマリアの蔑視された人々に福音を伝えようとしたイエスの無条件の愛と慈悲が見て取れます。

応用：

最も近しい家族から拒絶されたことが、あなたを「困窮者」への奉仕へと導いたのでしょうか、それともその落胆が、奉仕から完全に撤退させる原因となつたのでしょうか。

拒絶にどう対処しますか？

イエスはそれをどう受け止めたでしょうか。あなたはイエスの模範にどのように倣いますか。